

## 2022年度（令和4年度） 学校関係者評価委員会報告書

学校法人駿河台学園 駿台観光アンド外語ビジネス専門学校は、学校関係者評価委員会を下記の通り実施しましたので報告いたします。

令和5年3月31日

学校法人駿河台学園

駿台観光アンド外語ビジネス専門学校

校長 和下田 俊一

### 1. 実施日

- ・第1回 令和4年12月22日(木)
- ・第2回 令和5年 1月23日(月)

第1回は学校自己評価について学校側から委員へ説明いたしました。

第2回は学校自己評価について委員からの評価を受け、議論いたしました。

### 2. 学校関係者評価委員

- 草島 葉子（学校法人興國学園理事長 興國高等学校校長）  
中岡 義久（大和大学 学修支援センター長 国際室室長）  
三田 和司（阪急電鉄株式会社 執行役員 都市交通事業副本部長）  
菅田 智裕（CKTS 株式会社 執行役員）  
町口 俊介（帝国ホテル大阪 営業部営業課 副支配人）

### 3. 学校側出席者

- 和下田 俊一（校長）  
豊田 基行（副校長）  
川嶋 茂男（教務部 部長代理）  
寺本 佳弘（教務部 次長）  
海田 昇（教務部課長代理）  
瀬川 好美（教務部 課長補佐）

### 4. 議事報告（評価対象期間 令和3年4月1日～令和4年3月31日）

項目	委員からの評価・意見と今後の取り組みについて
【基準1】 教育理念・目的・育成人材像	適切(100%) 「コロナ禍にあって課題を整理し、工夫して対応されている」との評価をいただきました。 保護者への浸透ができていないと考え、保護者会を立ち上げたいと思います。
(基準2) 学校運営	適切(100%) 「システム統合など合理化が進められている。今後の課題は人事や給与制度でやりがいを生み出す雰囲気づくりが求められる」との意見がありました。 喫緊の課題として、高年齢化、改革をしていくにあたり意見が出やすい雰囲気作りが必要であると考えます。

<p>【基準 3】 教育活動</p>	<p>適切(100%)</p> <p>「コロナ時代の学生の環境は大変厳しく通学が困難となっている者も多い。出席率 80%を守ることも大切であるが、オンラインの活用など、少しゆとりのある対応が求められる昨今ではないか」との意見がありました。</p> <p>単位認定取得に 80%以上の出席率が前提となっており、他専門学校と比べて厳しい気もする。退学、脱落者防止のため、補講制度で救済することもある。ライブ授業をオンラインで配信できる設備があれば良いのだが、今後の課題である。</p>
<p>【基準 4】 学修成果</p>	<p>適切(80%)・ほぼ適切(20%)</p> <p>「語学系学生の目標が私達の世代が考えてきた生きていくための手段ではなく、もっとぼんやりとした自分育て的なものなのか、”がつついた感じ”がないのが心配である」との意見がありました。</p> <p>語学系の一部学生は就職に関して楽観的に感じている。就活の波に乗れていない学生に対しては個別に対応していきたいと思います。</p>
<p>【基準 5】 学生支援</p>	<p>適切(80%)・ほぼ適切(20%)</p> <p>「保護者ともオンラインで学生情報を共有するシステムがあると、教育内容がより一層アピールできると思う」との意見がありました。</p> <p>保護者のメールアドレスを確実に入手し、情報発信を行う。また、保護者会にて学生情報の共有をはかることも考えます。</p>
<p>【基準 6】 教育環境</p>	<p>適切(100%)</p> <p>「設備の改修もあり、教育環境も整備されている」との評価をいただきました。</p> <p>校舎を見学していただきましたが、設備の改修が必要なものは順次進めていきたいと思えます。カリキュラムに必要な設備は提供しております。防災訓練はコロナの感染状況を判断して実施したいと思えます。</p>
<p>【基準 7】 学生の募集 と受け入れ</p>	<p>適切(80%)・ほぼ適切(20%)</p> <p>「広域にアピールできる SNS やオンラインが有効」「募集活動では新たなネットワークの構築が必要」「企画立案の中で職員のスキルアップや積極的な展開力が育まれることを期待したい」などの意見・提言をいただきました。</p> <p>留学生募集では卒業生の口コミ、日本人学校の先生とのネットワークができています。日本人募集では高校の先生との関係構築には至っていないのが現状で、卒業生の就職先、資格取得などのフィードバックに留まっている。鉄道サービス学科で TikTok の配信を始めており、他学科にも広めていきたい。職員に対する研修は退学防止のための研修に留まっている。募集に対する研修、取り組みをあまり行っておらず、今後の課題としたい。</p>
<p>【基準 8】 財務</p>	<p>適切(100%)</p> <p>「母体が安定しているたため、安心して拝見できる財務状況だと感じた」との評価をいただきました。</p> <p>2022、2023 年度は留学生数も厳しい状況で耐え忍ばなければならないが、2024 年度から留学生数への期待、コロナ収束から回復基調に乗せていきたいと思えます。</p>
<p>【基準 9】 法令等の遵守</p>	<p>適切(40%)・ほぼ適切(60%)</p> <p>「学校評価についての取り組みが始まり、より透明性が増し社会的評価を得られる状況となった」との評価をいただきました。</p>

	2022年度より学校関係者評価委員会を立ち上げたことで情報公開を進めます。
【基準 10】 社会貢献・ 地域貢献	<p>適切(60%)・ほぼ適切(40%)</p> <p>「この分野こそ学校の底力が試される。協賛というより学生が主体的に取り組むことができる学園主催のイベントを発信し、学生とプラスの刺激を分け合うことによりエネルギーなムードでアピールしたい」との意見がありました。</p> <p>地域振興まつりの協賛に留まっており、学生主体のイベントなどを発信していきたい。</p> <p>大阪観光局監修の大阪 B&amp;S プログラムに参加するなど国際交流に取り組んでいる。</p> <p>また、留学生の教育内容では、「2021年度日本留学 AWARDS 西日本地区専門学校(社会・文化系部門)において入賞した。</p>